

## 教育の未来を考える「三鷹子ども熟議」概要

三鷹市教育委員会

### 1 趣旨

- ・ これからの三鷹市の教育の未来について、児童・生徒の代表から意見を聴く機会をもち、新たに策定する「三鷹市教育ビジョン2022（仮称）」に子どもたちの意見やアイデアを反映する。
- ・ 言語活動の一環として文部科学省が推進する「子ども熟議」の手法を代表児童・生徒が体験することを通して、各学校での授業や特別活動での普及・啓発の機会とする。

2 日時 平成23年7月9日（土） 9時00分～12時00分

3 会場 三鷹市教育センター 3階 大研修室

4 参加者 三鷹市立各小・中学校から代表の児童各校2名、生徒各校3名  
小学生各校から2人×15校＝計30人・中学生各校から3人×7校＝計21人  
グループ編成（小学校6人×5グループ、中学校7人×3グループ 計8グループ）

### 5 プログラム

- ① 開会あいさつ
- ② 趣旨説明・方法の説明（熟議の方法説明）
- ③ 各グループに分かれて熟議（熟議の時間は実質1時間半程度）
- ④ グループ発表 5分×8グループ
- ⑤ 講評 貝ノ瀬 滋 教育長

6 熟議の結果概要 ※以下、8つのグループにおける4つのテーマの熟議結果を整理統合した。

#### 【テーマ1】 地域の人からこんなことを学びたい！（もっと地域を好きになるために）

##### ●課題

地域のことについて知らないことが多い。現在も、出前授業や体験学習、部活動などに地域の人が関わってくださっているが、もっと発展させたい。

##### ○解決策

- ・ 小学校でも、地域の方の話を聞く機会をつくる、講座をつくる。
- ・ 地域の方とともにイベントをする。
- ・ 地域の方と一緒に体験することで地域の方がより身近に感じられるようにする。
- ・ 学んで分かったことを地域の人に知らせる機会をもつ。
- ・ 中学校では、特に生き方や進路、三鷹の歴史やよさについて地域の人から聞く機会を増やす。
- ・ 中学校では、自分たちで地域の方と関わる企画をし、地域の人に呼びかけていくことで地域の人と一緒にモチベーションを上げていきたい。

##### ☆ファシリテーターの教員から

・本市の小・中学校はコミュニティ・スクールであり、これまでも地域の人々の協力を様々な場面で得ているが、子どもたちにとっては、まだまだ地域の人々に関わり、地域の人々から学びたいという願いをもっていることが分かった。地域ぐるみで子どもたちを育てていくことについて、一層の充実・改善を図っていきたいと思った。

## 【テーマ2】 こんな15歳になりたい！

(小・中一貫で学び、三鷹の未来を担う人になるために)

### ●課題

なりたい自分の姿をもちにくい。15歳の自分の姿をイメージし、今からどんなことに取り組んでいけばよいかを考え、なりたい自分のイメージを明確にする必要がある。

### ○解決策

- ・目標を描くことが大切である。
  - 「三鷹でコミュニケーションが取れる人、三鷹の環境を守る人、自然のことを考えてルールを守る人、思いやりがある人、みんなに優しい人」
  - 「夢を持っている人、将来に向かって、学ぶ努力ができ、勉強している人」
  - 「気持ちをコントロールして自分から話しかけられる人」
  - 「積極的に行動する人、外国人とコミュニケーションが取れる人」
  - 「その場その場で考えられ、自分に自信がもてる15歳」
- ・小学生の時からやりたいことを考え、いろいろな挑戦の場があるとよい。いろいろな人と関わるなかで、自分の意見をもち尊重することを大切にしていきたい。

### ☆ファシリテーターの教員から

・子どもたちが「なりたい自分のイメージ」を明確にもつことがとても大切であることが改めて分かった。目標が明確になることによって、具体的な取組のイメージをもつとともに、目標に向かって頑張ろうとする意欲を高めることができると思う。

## 【テーマ3】 こんな先生に教わりたい！

(小・中一貫にかかわる先生に望むこと)

### ●課題

先生たちの中には、「叱るべき時に叱らない」「命令が多い」「子どもの考えを否定する」「子どもによって態度を変える」「授業をきちんとしない」「漢字・文字を間違える」などの先生もいる。子どもから見て課題を感じる先生については、先生としての資質や社会人としての常識について見直してほしい。

### ○解決策

- ・授業をきちんとする。(子どもの意見を取り入れた授業を受けたい。毎日宿題を出す。など)
- ・先生が、授業のペースをコントロールする。
- ・先生も勉強して授業に臨み、授業内容や指導技術を向上させる。
- ・先生は、子どもへの対応について、人としての公平な態度を貫く。
- ・先生は、子どもと積極的にコミュニケーションを取り、子どもを一人の人間として尊重し理解する。
- ・先生は、子どもへの愛情をもち、子どもにもそれがわかるように示す。

### ☆ファシリテーターの教員から

・子どもたちは、議論の中で日常の学校生活や自分の授業態度を振り返ることを通して、自校や学園の尊敬すべき先生の具体的な姿を思い浮かべ、その先生を信頼している気持ちが伝わってきた。また、日々授業改善に努め、指導の工夫を凝らしている各学校・学園の教員の姿も伝わってきた。

・子どもたちが、よりよい授業を受けたい、きちんとした指導を受けたいといつも願っていることが改めて分かった。全ての教員は、子どもたちが望む指導力のある先生となるよう、日々研さんを積み重ねる必要があると強く感じた。

#### 【テーマ4】 こんな小・中の交流や学習をしたい！

(学園生活をもっと楽しく・充実させるために)

##### ●課題

今までの取組にも楽しく、役立つものがある。しかし、交流の時間や回数が少なく、自由に話せる雰囲気や環境がない。活動に関しては、先生主導になり小学生は先生に指示されて活動し、中学生は先生に信頼されていないと思える。主体的な活動を行いたい。

##### ○解決策

- ・今ある交流活動を一層活発化させる。全員や学年の組み合わせで一緒に行くことを増やす。(運動会での小学生種目を確実に実施する。中学生合唱コンクールへの小学生の招待、中学校での校庭開放、小・中合同自然教室、バーベキューなどを行う。)
- ・ふれあいボランティア(中学生が小学生への学習ボランティアを行うこと。現在は中学校第3学年が行っていることが多い。)や小学校への職場訪問を中学校全学年が行う。
- ・児童会、生徒会活動を活性化し、みんなの意見を吸い上げる。そのために実施の回数を増やし、自分たちで話せる雰囲気をつくる。
- ・先生が中学生をもっと信頼して任せる場面をつくる。
- ・中学生としては、小学生が中学生を身近に感じ、中学生に憧れをもってほしい。そのために「もっと気軽に話せる関係を創り、学園としての意識を高める」交流活動を行いたい。

##### ☆ファシリテーターの教員から

・子どもたちは、小・中一貫教育校として同じ学園の児童・生徒であることの意識をとて強く感じている。学園としての一体感をもって学校生活を一層充実させるために、もっと積極的に、お互いに関わり合いたいと願っていることが伝わってきた。

#### 【教育長講評】 子ども熟議の更なる推進を

熟議によって、お互いの考え方のよさを自分の成長に生かし、自分の考えを豊かにすることができる。熟議はとても有効な話し合いの手段である。

21世紀は一人一人を大切にすることが行われなければならない。三鷹市はそのような教育が行われるためのビジョンをこれから創っていく。その中に、教育の主人公である子どもたちの意見や願いを入れ、よりよい教育の理想を掲げ、地域に住む人たちが皆が一緒になって理想の実現を目指した教育を推進していきたい。

今後、学校において、学級や生徒会などで熟議を提案し、みんなの意見が出され、問題解決ができるように熟議を広げてもらいたい。今回「子ども熟議」に参加した児童・生徒の皆さんにはその役割を担ってもらいたい。

皆さんは未来の主人公である。最終的なゴールは皆さんが自立した人間になることであり、友達と一緒にたくましくこれからの社会を生き抜いていくことである。そのために、自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の言葉で語れる人間になってほしい。違いを乗り越え、平和な社会を創ってほしい。そのために熟議は大変重要な手段となる。

三鷹市は全ての小・中学校がコミュニティ・スクールになっている。地域社会、保護者と一緒によりよい学校を創っていく仕組みが整っている。「熟議が行われる学校がコミュニティ・スクールである」と言ってもよい。初めての「子ども熟議」を子どもたちは大変よく頑張った。今後、あらゆるところで広め、自信をもって実践してもらいたい。

## 7 熟議の写真

